



2019年12月18日

各 位

会 社 名 株式会社ピー・ビーシステムズ
代 表 者 名 代表取締役社長 富 田 和 久
(コード番号：4447 福証Q-Board)
問 合 せ 先 取締役管理本部長 彌 永 玲 子
(TEL. 092-481-5669 (代表))

投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

説明会の名称： 『福証単独上場会社の会 20 周年・福岡証券取引所設立 70 周年記念』 第 101 回福証 IR フェア
開催日時： 2019 年 12 月 18 日 (水) 受付 12:30 開会 13:00 (当社説明会は第 4 部 15:35~16:10)
開催方法： 対面による実開催
開催場所： ソラリア西鉄ホテル 8 階 彩雲 福岡県福岡市中央区天神 2 丁目 2-43
説明会資料名： 会社説明資料 UPDATE 2019 年 12 月 18 日

【添付資料】

1. 説明会において使用した資料

以 上

SecureCloud & VirtualReality



会 社 説 明 資 料

UPDATE 2019年12月18日

株式会社ピー・ビーシステムズ

(証券コード : 4447)

代表者のプロフィール

富田 和久 (とみた かずひさ)
1963年7月17日生 (56歳)

略歴

- 1986年3月 九州大学経済学部 卒業
- 1986年4月 野村コンピュータシステム(株)
(現(株)野村総合研究所) 入社
- 1992年1月 (株)シティアスコム 入社
- 1997年2月 当社設立 代表取締役社長(現任)



[想い]

方法論の美しさよりも成功の美酒を願う。
使う人が大好きになるような感性を込めた業務システム構築が願い。

企業概要

社名 : 株式会社ピー・ビーシステムズ

社名の由来 : *P o w e r f u l a n d B e a u t i f u l*
(力強く、美しいシステムを作ろう)

代表者 : 富田 和久 (とみた かずひさ)

設 立 : 1997年2月

所在地 : 福岡市博多区東比恵3丁目3-24

資本金 : 2億1,326万円

社員数 : 48名 (2019年12月1日時点 : 取締役・監査役除く)

業務内容 : **業務システムから空間に至る仮想化システムを構築**

証券コード : 4447 (福岡証券取引所 Q-Board)

沿革

- 1997年2月 福岡市博多区にて創業（22年10ヶ月前）
- 1998年10月 シトリックス社製品の取扱を開始（約21年前）
- 2004年4月 シトリックス・ソリューション・アドバイザー/
プラチナ契約を締結
- 2010年12月 エモーショナルシステム事業開始
- 2015年5月 泉陽興業株式会社と4D王販売の業務提携（約4年前）
- 2018年2月 シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社より
Best of Citrix Advisor Rewards/Net New Partner Sourced Award 受賞
- 2018年7月 福岡市科学館クリエイティブスペースの企画展示作品を選ぶ
コンテストで4D王が大賞を受賞
- 2019年9月12日 福岡証券取引所 Q-Boardに単独新規上場
- 2019年11月 オラクルが提供するクラウドへのビジネス本格参入を発表

「勇者たらんと。」

小さな僕等が持ち得るものは、
一人一人の知恵と勇気と、
諦めない強い心だけだ。
どんな時でも、
「その一歩」が踏み出せるように。
勇者たらんと。

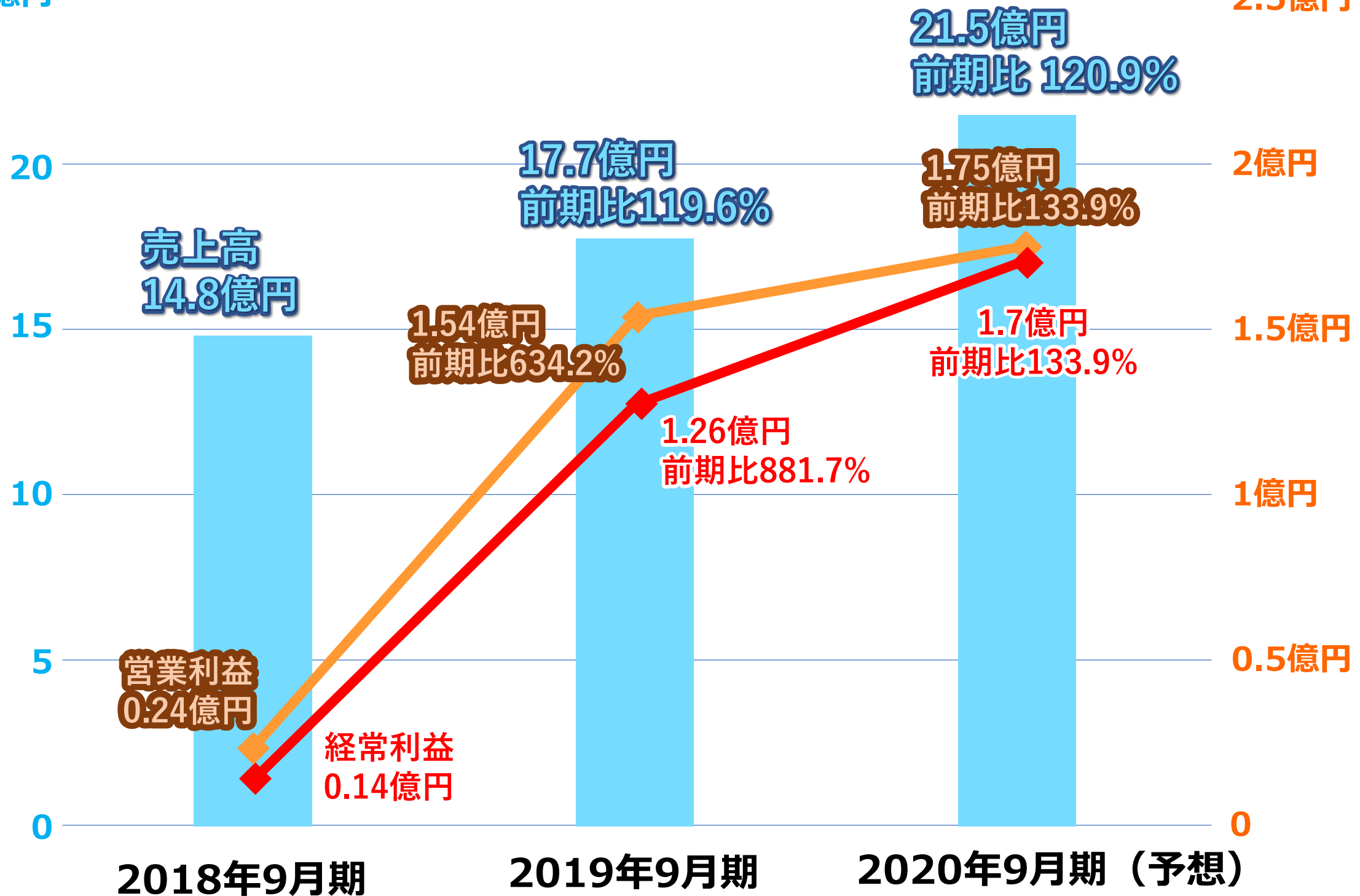
高度な専門知識を持ち、
どんな問題をも自ら解決する強い責任感で、
顧客システムを成功裏に導くシステム構築会社であろう！

業績推移

■ 売上高 — 営業利益 — 経常利益

売上高
25億円

営業利益
経常利益
2.5億円



事業セグメントの紹介

当社は以下の2つの事業を展開しています。

セキュアクラウドシステム事業(SCL事業)

企業の基幹システムのクラウド化を行う事業です。

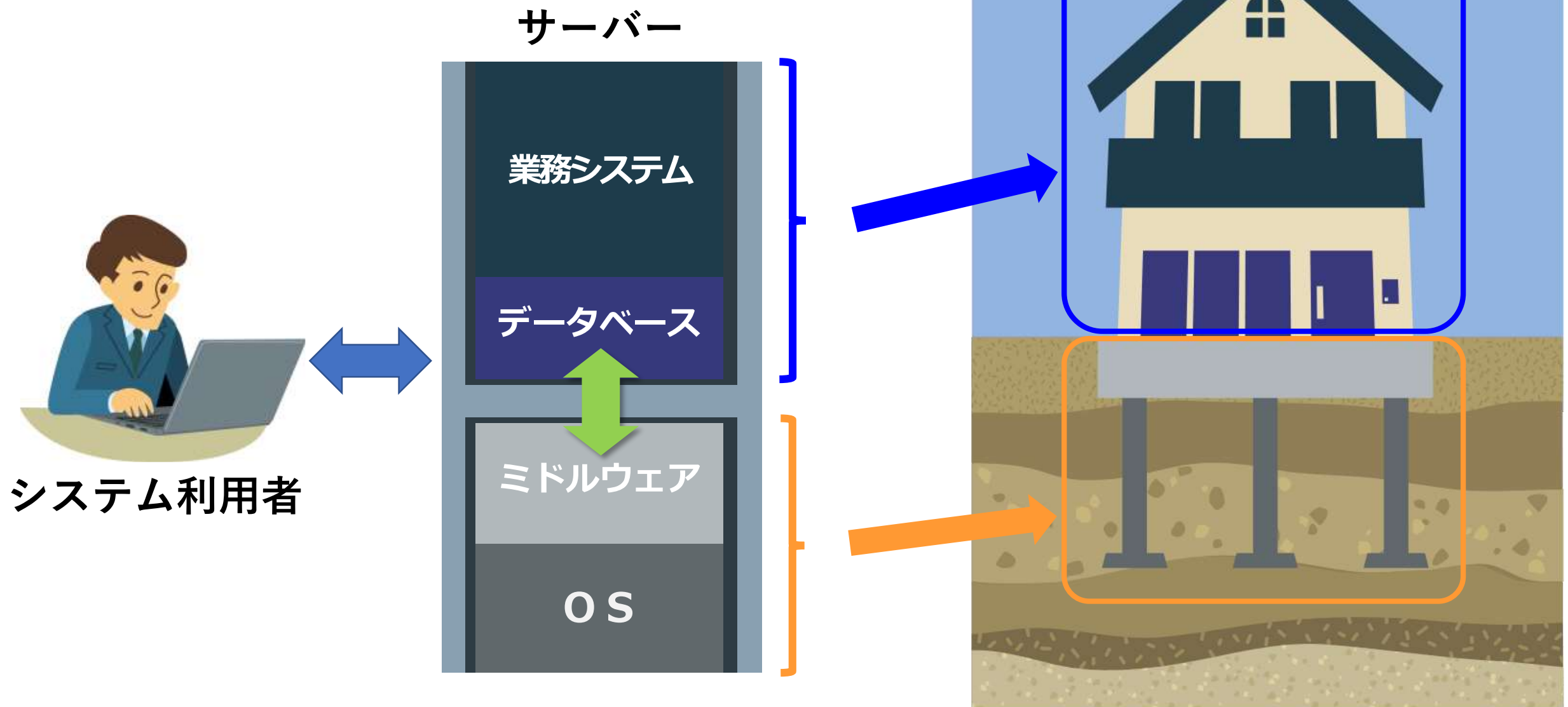
エモーショナルシステム事業(EMO事業)

体験共有型VRシアター「4D王」を
製造販売する事業です。

セキュアクラウドシステム事業 (SCL事業)

事業内容 (SCL事業)

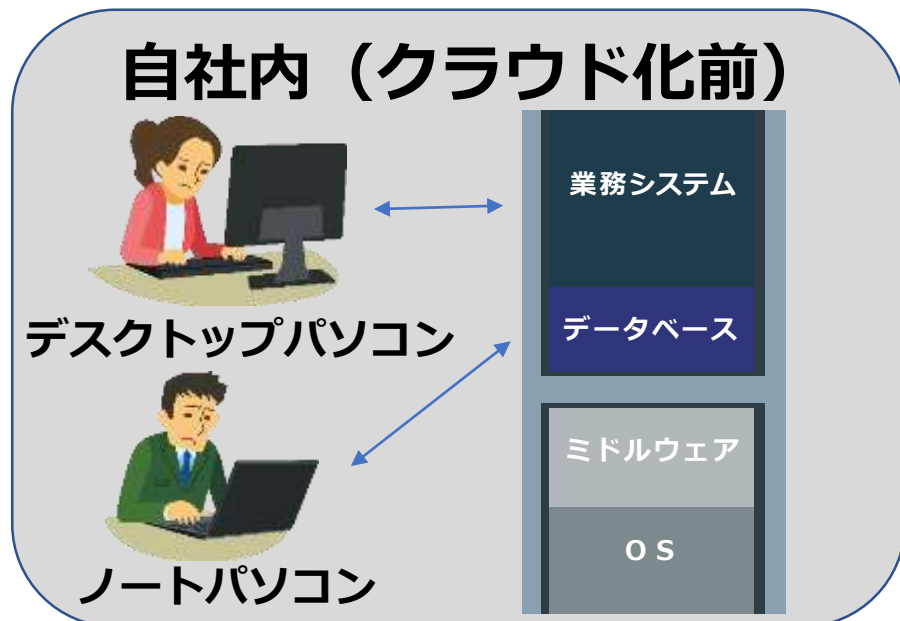
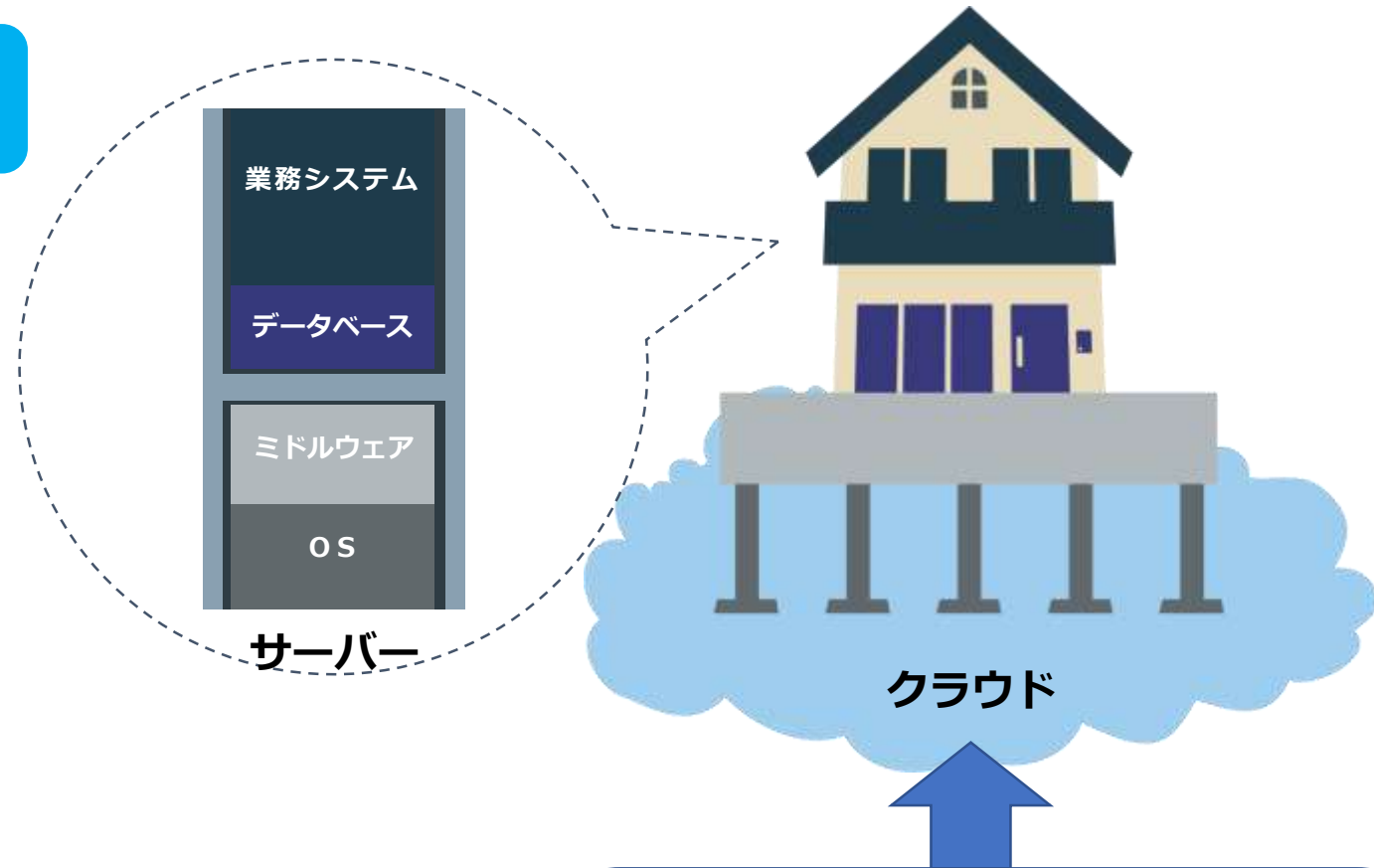
システムの構造は？



システムを建物にたとえるなら、業務システムとデータベースは「建物」で、ミドルウェアとOSは「基礎」にあたります。
利用者が目にする業務システムがしっかり動作するためには、しっかりした基礎が必要です。

事業内容（SCL事業）

クラウドとは？



- ・ システムを利用する場所、時間等は、自社ネットワーク内に限られる
- ・ サーバーのメンテナンスは自社負担

- ・ システムを利用する場所・時間等の制約から解放される
- ・ 自社でのサーバメンテナンスが不要

事業内容 (SCL事業)

SCL事業が やっていることは?

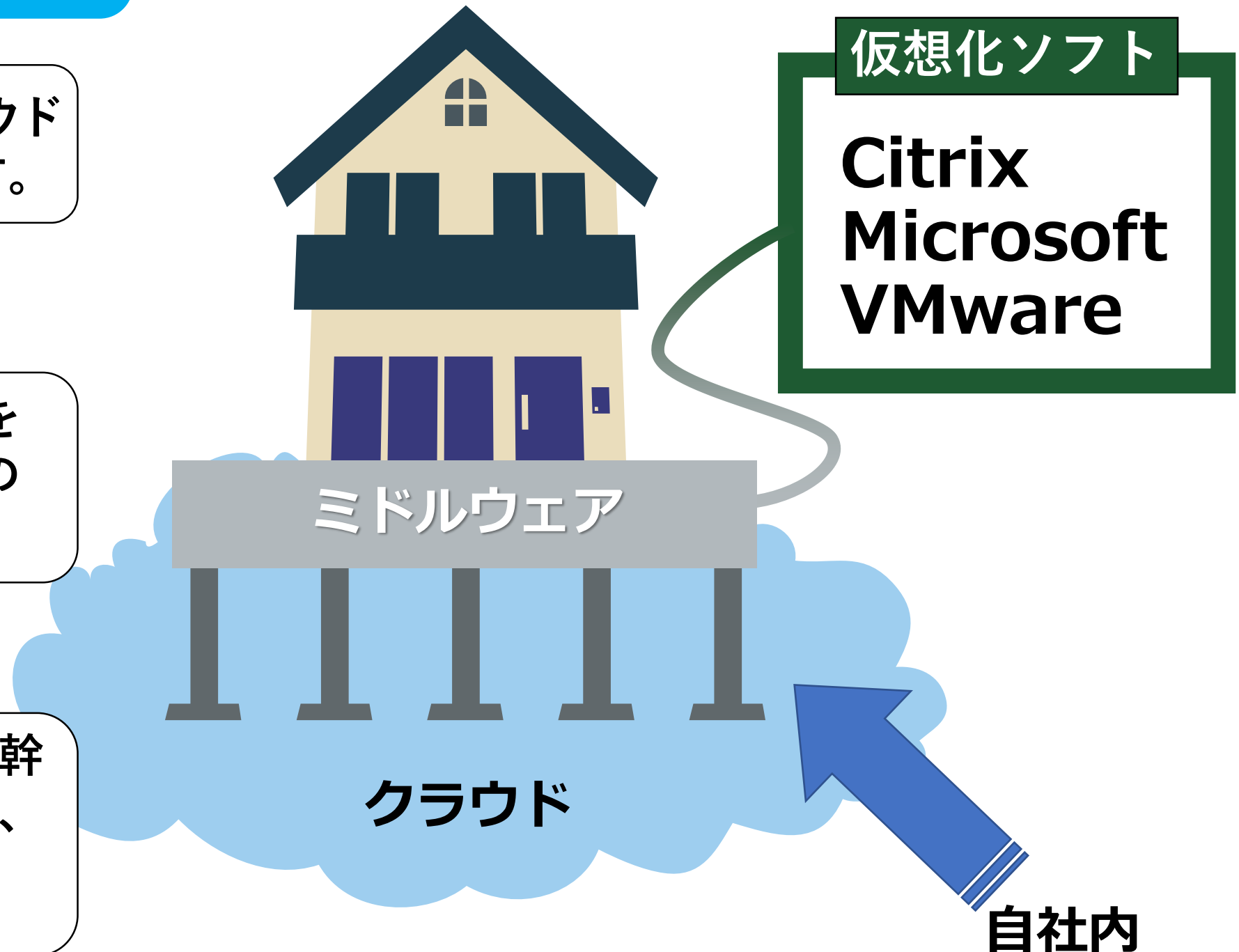
企業が必要とするクラウドの「基礎」を作ります。



企業の基幹システムをクラウドの「基礎」の上に構築します。



自社内にある企業の基幹システムを最適化して、クラウド上に構築した環境に移行します。



当社の強み（SCL事業）

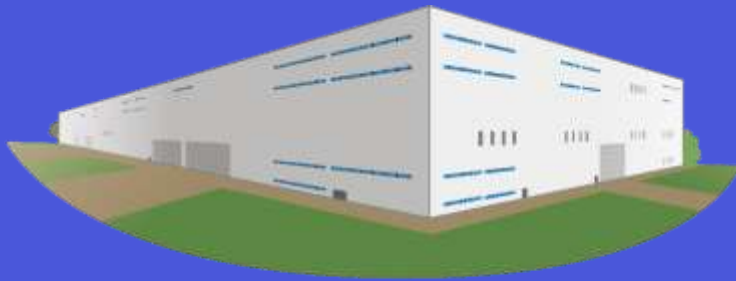


Citrix、Microsoft、VMwareの各クラウドソフトに精通している当社ですが、中でもCitrix社からスペシャリストとして認定された分野数において、当社は国内単独首位にあります（2019年12月18日現在）。 当社の技術力の証は、Citrix社が認定する上位技術資格者数に表れています。

スペシャリスト	ネットワーク		仮想化	モビリティ	データセンター	県名	会社名	E-mail	電話番号	営業資格	技術資格						技術資格計
											Apps and Desktops			Network		Mobility	
											CCSP	CCE-V (設計)	CCP-V (構築)	CCA-V (運用)	(構築)	(運用)	
P	★	★	★	★	福岡県	株式会社ピー・ピーシステムズ	✉	☎	13	12	9	11	6	6	4	48	

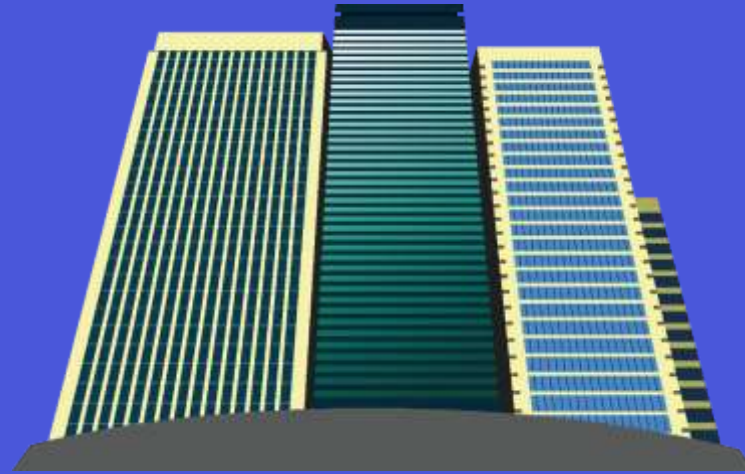
仮想化ソフトの代表格、Citrix社との強い連携

3つの事業展開（SCL事業）



中堅ユーザ企業

企業のシステム全体
を当社が構築



大手同業者

大企業の
クラウド基盤構築



有力SaaS企業

SaaS提供用の
クラウド基盤構築

福岡に住み暮らし、日本全国を飛び回りながら、
数々の「企業基幹システムのクラウド化」を行っています。

SaaS・・・Software as a Service

大テーマ「2025年の崖」とは

企業が長年使ってきたITシステムは、今後2025年までの間に刷新しなければ、維持管理コストが現在の約3倍（年間12兆円）に跳ね上がる可能性があります。この問題を経済産業省は「2025年の崖」と表現し、すべての企業に対して一日も早いシステム刷新を行い、デジタル変革（DX: デジタルトランスフォーメーション）することを促しています。



「2025年の崖」がもたらす需要（SCL事業）

業務システムの変革による商機増加

企業における業務システムの約80%がクラウドに非対応
⇒デジタル変革（DX:デジタルトランスフォーメーション）を見据え、硬直した古い業務システムを刷新しクラウドに移行する「**業務システム刷新・リフト需要**」

中堅企業の
ほとんどが対象

データベース変革による商機増加

企業のデータの80%は有効に利用されていない
⇒企業のデータベースをOracle Cloudなどのクラウドに移行し、データ分析を有効に実行して企業の競争力を高める「**データ利用の進化・シフト需要**」

大企業も対象

マルチクラウド化による商機増加

クラウドの浸透により顕在化するクラウド障害（社会問題）への対応
⇒複数のクラウドを組み合わせることで性能確保とクラウド障害対策を両立しつつ、事業継続性計画（BCP）に対応する「**マルチクラウド化需要**」

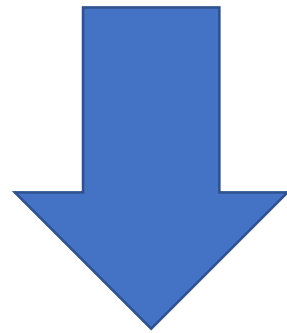
SaaS業者も対象

展望 (SCL事業)

2025年の崖
旺盛な需要

+

クラウド基盤
構築専門企業
圧倒的技術力
(他社参入障壁)



堅実な成長



エモーションナルシステム事業 (EMO事業)

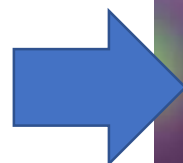


事業内容（EMO事業）

360度スクリーンに3D映像を切れ目なく表示する特許をもとにした、没入感の高いVR空間を生み出す「4D王」を製造販売する事業です。



円筒形の外観が特徴
短期間での設置・撤去が可能です。



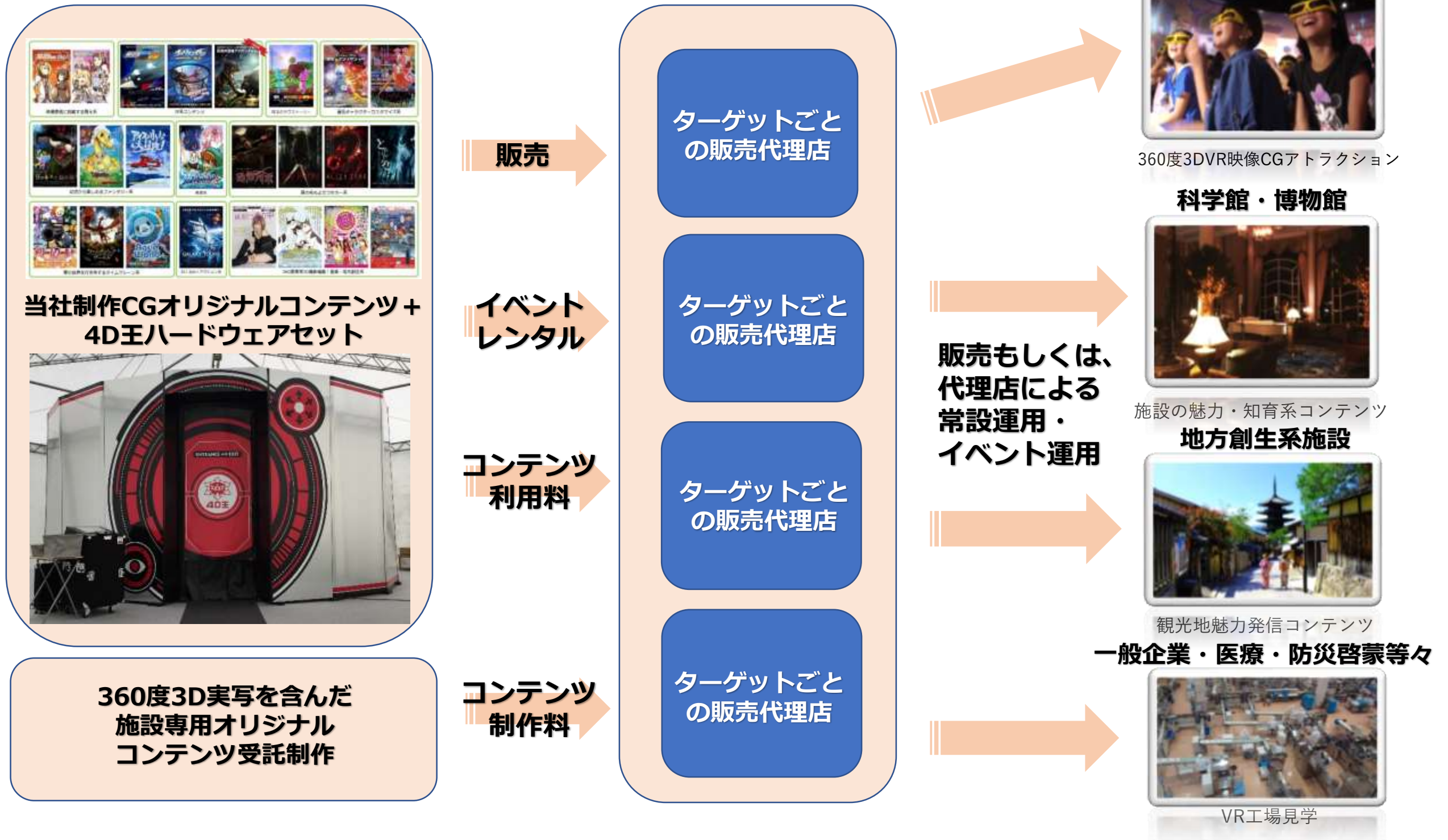
観客入場後の様子。
自分の目の前に映像が見え、突き抜けるため、思わず手を伸ばします。

HMDを装着せずにVR空間を実現、 複数人で同時に体験できるVRシアター！

負担の少ない偏光メガネ(低・高年齢向け偏向メガネも準備)のみの着用と、短時間のコンテンツにより、HMD型VRとは異なり、お子様から高齢者まで、誰でも楽しめる3D360度メディア及び回転率が高い集客装置として利用されています。

日本他、アメリカ、台湾、インドの特許取得済み。
特許内容：没入感の高い立体映像を提供することにより、視聴者を極めて容易に仮想空間に誘って、従来とは異なる映像体験を味わうことができる立体映像の投影方法及び立体映像の投影装置を提供する。

ビジネスモデル（EMO事業）



今後の新展開（EMO事業）

i4DOH

4D王に映像のストーリー分岐や、観客自身が操作することによって視点を変化させる機能を付加。

インタラクティブな機能を持ったこの新商品 *i4DOH* を2020年7月の市場投入に向けて検証実験中です。

※2019年11月20日 PR情報として開示

建築関係

同時に最大100名がVR共有体験できる！

マンション・戸建て住宅のVR展示場

居住階数や建築資材、時間帯等の環境データ

インタラクティブ操作

自由な視点移動・ストーリー分岐が可能！

防災意識向上のためのVR災害体験

防災関係

災害規模、雨量や風速などの環境データ

今後の新展開（EMO事業）

災害対策市場への展望

- ・ 4D王を利用した自然災害・火災等の疑似体験
- ・ **地域住民の防災意識を高めて命を守る**

市場：

- ・ 全国の防災センター：**74ヶ所**
(当社調べ)
- ・ 大規模防災イベントなど

振動、突風、立体音響、立体映像

大勢のグループで同時に災害状況を疑似体験



今後の新展開（EMO事業）

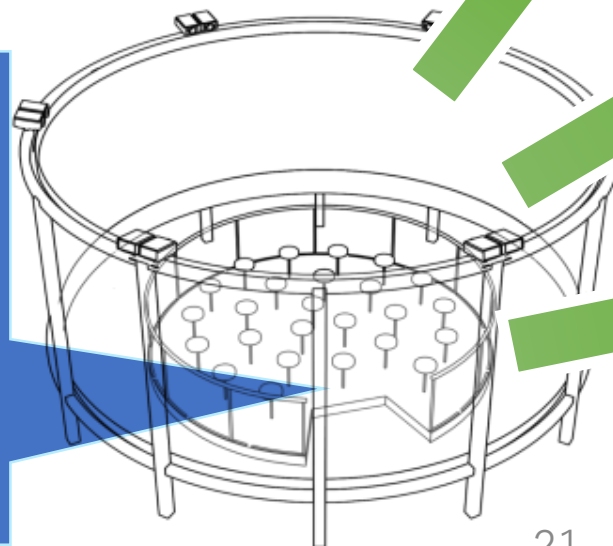
都市開発・建築市場への展望

- ・住宅展示場等における**バーチャル内覧**
- ・**季節/天候/階数/調度品/眺望** 等、**見たいところ、体験したいところを家族全員で同時に仮想体験**

市場：

- ・マンション/住宅販社・メーカー
- ・住宅展示場 など

居住階数や時間帯を
タブレット等で操作



今後の新展開（EMO事業）

科学館・博物館市場への展望

- 科学館・博物館への設置実績の蓄積
⇒ **体験学習・知育系のニーズを把握**

市場：

- ・全国の主な科学館 208ヶ所
- ・全国の主な博物館 121ヶ所
(当社調べ)

飽きない教材（インタラクティブ機能を使った映像切替え等）

お子様も安心して楽しめる安全性

運営スタッフ省力化（自動案内、自動上映、セルフサービス）



終日自動上映/自動案内板

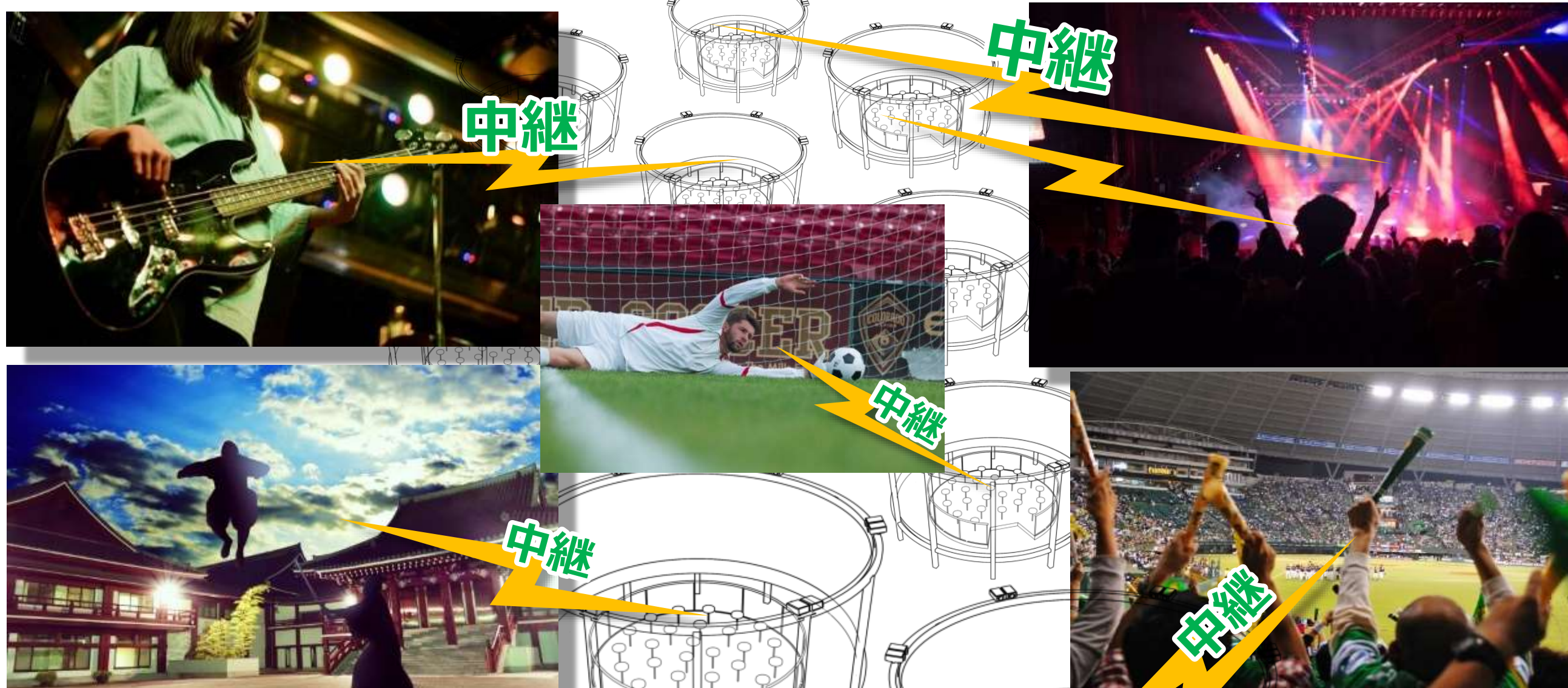
今後の新展開（EMO事業）

ライブビューイング市場への展望

市場：

- ・ライブビューイング提供店舗
- ・ホール/公共施設 など

- ・ 4D王の持つ “感動の共有感” を駆使
- ・ **5G通信を利用したコンサートや演劇の中継
360度立体映像/立体音響ライブビューイング**



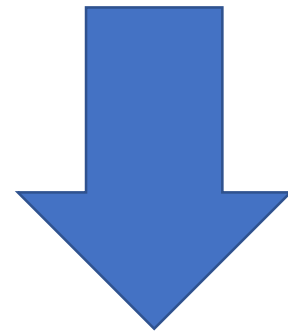
突風、地面の揺れ、立体音響で臨場感MAX！

EMO事業の展望

既存の遊園地・
テーマパークに加えて
新市場の登場

+

国際特許に
基づくVR技術
i4DOH投入
シアター&メディア
としての活用



発展可能性大！の事業

情報発信と株主還元の方針等 (投資家の皆様からのお問合せ事項へのご回答)

IR方針

投資家の皆様に有用と判断される情報を積極的に開示し、経営の透明性、企業情報伝達への配慮を高めてまいります。

2020/9期実績

- ・ 11/20 (PR情報) 4D王にインタラクティブ機能を追加したi4DOH 検証実験
- ・ 11/22 (適時開示) オラクルが提供するクラウドへのビジネス本格参入
- ・ 11/29 (適時開示) 株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更
- ・ 12/3 (PR情報) クラウド印刷コネクター「ThinPrint Hub」
- ・ 12/18 (IR) UPDATE版会社案内資料

IRは株主との対話、積極的なIRが会社の成長を促すことにつながると考えています。

株主優待策

時期・内容は未定ですが、当社らしい内容を検討してまいります。

配当方針

現在、配当の時期は未定ですが、当社は株主に対する利益還元を重要な経営課題の一つに位置づけています。

株式分割

普通株式1株につき2株の割合での株式分割を発表しています。**権利付最終日：2019年12月26日(木)**

今後も、投資家の皆様がより投資しやすい環境を整え、流動性の向上及び投資家層の拡大を図る考えです。

重複上場

他市場への重複上場は、今後の業績見通し及び、タイミングで判断する予定です。

免責事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招来し得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料の作成に当たり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれている場合がありますが、これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として、その達成を約束するものではありません。

当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化や顧客のニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更等、今後のさまざまな要因によって、大きく差異が発生する可能性があります。

また、本資料発表以降、新しい情報や将来の出来事等があった場合において、当社は本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先

〒812-0007 福岡市博多区東比恵3-3-24
株式会社ピー・ビーシステムズ
経営企画部 IR担当
TEL 092-481-5669
MAIL ir@pbsystems.co.jp
URL <https://www.pbsystems.co.jp>